真夏の夜の両国

東都両国ばし夏景色 大判錦絵三枚続

五雲亭貞秀／画

安政6年（1859）4月　藤岡屋慶次郎／版
東京都 江戸東京博物館 所蔵

大江戸の真夏の夜、真ん中の両国橋にはびっしりと人人人の頭が。まるで魚眼レンズで撮影したような三枚続の錦絵。まさに空飛ぶ浮世絵師と異名された五雲亭こと歌川貞秀（1807～79）の面目躍如といえよう。本図は、この錦絵をデジタル画像で三倍に拡大したもの。隅田川には花火を愛でる大小の納涼船がたくさん出ている。手前の両国広小路側には掛け茶屋がびっしりと、また柳橋近くには万八楼・梅川、向こう岸の回向院前には青柳楼などと有名な料亭の名が見える。微細な彫りは、当時名人の誉れ高き彫師・横川竹二郎の妙技である。とくとご覧下さりたく候。

明治になっても続く「川開き」の大花火

東京両国橋　川開大花火之図

永島春暁／画

明治23年（1890）　長谷川常治郎／版
東京都 江戸東京博物館 所蔵

明治維新をへて文明開化の影響は、東京の各地に波及していきました。両国橋は鉄の橋となり、川岸にも煉瓦造りの洋風建築が建設されていきました。その一方で花火の大口スポンサーであった大名もいなくなり、隆盛を極めた隅田川の花火は存続の危機に直面します。

しかし、両国周辺の商人たちの努力によって茶屋花火の伝統は維持されましたが、花火の日は「川開き」の一日だけに収斂していきました。

「川開き」の大花火で賑わう両国周辺の様子

東都名所　両国繁栄河開之図

歌川国郷／画

嘉永6年（1853）　釜屋喜兵衛／版
東京都 江戸東京博物館 所蔵

江戸に「夕涼み」の到来を告げる「川開き」の花火は、特に大花火と呼ばれていました。この大花火ばかりでなく「夕涼み」の期間に打ち上げられる花火の経費を負担したのは、御三家のような有力大名と両国周辺の商人たちでした。両国周辺の商人たちが打ち上げる茶屋花火は、先に花火の打ち上げ経費を負担して、打ち上げ当日に集まる見物客を相手に商売し、その売上げで経費を回収していました。

両国周辺の商人たちにとって花火は投資であり、花火見物で賑わう両国界隈を描いた多くの浮世絵は、少しでも多くの来客を願って制作した宣伝広告だったのです。

花火の光りがつくる陰影の美　浮世絵も文明開化

両国花火之図

小林清親／画

明治13年（1880）　福田熊治良／版
東京都 江戸東京博物館 所蔵

江戸時代に確立していた多色刷り木版画の技法に革新をもたらしたことで知られる小林清親の作品。清親は、光と影が織りなす美を巧に取り込んだ光線画と呼ばれた手法をつかって、東京の名所を描きました。

この作品も、花火の強い光によって作り出される、黒々とした人影と隅田川の川面にさざめく波のきらめきを対比的に描き出した秀作。

メトロ銀座ギャラリー Glass Box Metro Ginza

錦絵版画で見る「江戸東京の風物詩」2017年7月28日(金)～8月31日(木)

「川開き」と隅田川花火大会

今回、展示した作品は、現代の隅田川花火大会の起源とも言われている江戸時代の川開きや花火大会の賑わい、さらには夏の風物を表現した錦絵及び版画の作品の中から江戸東京の風物詩と題して紹介をいたします。

江戸文化を今に伝えるダイナミックな画法と厳かに夏の風物を現している錦絵芸術の魅力をご鑑賞していただければと思います。

金魚鉢と猫（縁側）（復刻版画）

小原祥邨（しょうそん）／画

大判錦絵　原図：渡邊庄三郎版　昭和６年［1931］

夏の暑さをさえぎる簾（すだれ）がかかる縁側に置かれたガラスの球形の金魚鉢。その内では尾ヒレをひるがえして優雅に泳ぐ赤い金魚が三匹。その外では、首に鈴をつけた飼い猫がそっと歩み寄り金魚を狙っている。その傍には金魚のすくい網と、江戸時代から鑑賞のため愛好された石菖（せきしょう）の鉢植えがある。次の瞬間が想起される、初夏のひと時。

名所江戸百景

両国花火（復刻版画）

歌川広重（うたがわひろしげ）／画

初摺　安政5年（1858）

風景画の名手・広重（1797～1858）が、安政（あんせい）の江戸大地震（1855年）後の新しい江戸名所風景を描いたシリーズ画の一枚。享保（きょうほう）大飢饉の鎮魂（ちんこん）のため打ち上げられた両国の花火は、現在の隅田川花火大会へと受け継がれ、夏の納涼の風物詩となっている。

朝　顔

井出岳水（いでがくすい）／画

井出岳水（1899～1978）は、山梨県生まれの日本画家で、中国に渡り上海で活躍し、戦後1946年に帰国。その後は版画へと傾倒する。花鳥画に清新な作品を描く。朝顔の花は、夏の早朝の清涼感とともに、なぜか秋への気配を感じる。

主　催　公益財団法人　メトロ文化財団

お問い合わせ先　公益財団法人　メトロ文化財団　公益事業部
電話　03-3253-6948　（10:00～17:00　土・日・祝日を除く）